

大西 俊輔さん × 当房 睦仁さん × 小川 洋

宇宙ビジネスは、人工衛星やロケット関連製品だけでなく、衛星データを活用したサービスの提供など、今後大きく成長することが期待されています。

今回、小川知事は、令和元年12月に世界最高レベルの超小型レーダー衛星「イザナギ」の打上げに成功された大西俊輔さんと、ものづくり企業の技術を結集してその衛星開発に貢献された当房睦仁さんをお迎えし、宇宙ビジネスの魅力や衛星開発に懸ける思いについて語り合いました。



株式会社QPS研究所 代表取締役社長
大西 俊輔(おおにししゅんすけ)さん

九州大学大学院 航空宇宙工学専攻卒、博士(工学)。大学院在学時より小型人工衛星開発プログラムに従事し、平成25年、株式会社QPS研究所(福岡市)に入社。翌年、代表取締役社長に就任。「イザナギ」の打上げ成功により、九州から世界の宇宙産業にインパクトを与える。



NPO法人円陣スペースエンジニアリングチーム 理事長
当房 睦仁(とうぼうむつひと)さん

平成9年、睦美化成(久留米市)代表取締役役に就任。平成19年、円陣スペースエンジニアリングチーム(e-SET)を結成し、地元企業10数社と協力して宇宙産業に参入。平成24年、e-SETをNPO法人化し、次世代の産業育成と技術者の地域定着を図る。

「イザナギ」の打ち上げ成功、
2号機「イザナミ」の打ち上げへ

知事: 初号機「イザナギ」の打上げが成功した瞬間は、県庁のパブリックビューイングで県民の皆さんと喜びを分かち合いました。子どもたちや宇宙に関心のある人をはじめ、多くの県民の皆さんに夢や希望を与える、まさに快挙でした。2号機「イザナミ」の打上げも楽しみです。

大西俊輔さん(以下、大西): ありがとうございます。初号機の打上げ成功により多くの反響がありました。そして2号機は、令和2年12月以降、アメリカの宇宙開発企業スペース・エックス社の主力ロケット「ファルコン9」に搭載されて宇宙に旅立つ予定です。

知事: いよいよですね。2号機はどんなところが進化しているのですか？

大西: 太陽電池パネルが増えて、より多くの電力が取り込めるようになりました。またイザナギとイザナミの2機体制になることで、得られるデータがより増え、スムーズな地表面の観測が可能になります。最終的には令和7年を目標に36機打ち上げる計画で、実現すれば、昼夜、天候を問わず地表面を観測でき、より詳細な画像が10分間隔で取得できます。特に、地上で現地確認が困難な災害時には、宇宙からの画像が迅速な災害対応に大いに役立つと思います。

知事: 夢やロマンだけでなく、衛星を利用して、暮らしを豊かにするビジネスまでも見越して取り組む時代になってきています。この衛星の開発に携わった県内16社を中心とした企業は「福岡版下町ロケット」としても話題になりました。樹脂加工が本業の当房さんが宇宙ビジネスに参入されたきっかけは？

当房睦仁さん(以下、当房): 平成19年に九州大学の講演会で宇宙ビジネスの話聞いて、当時所属していた久留米市の異業種交流団体のメンバーに相談すると、12社が「面白そう!」と興味を示し、そこから皆で衛星開発への挑戦を始めました。

知事: ものづくりと言っても、衛星の開発はご苦労も多かったのでは？

当房: 私はものづくりはプロですが、宇宙のことは素人なので求められる品質の水準が分からず、手探りででした。衛星の部品は軽さを要求される一方、打上げ時の振動や衝撃などに耐えうる強度も求められます。メンバーで知恵を出し合い、いろいろ試行錯誤を重ねました。九州地場の企業のみで制作した製品で打上げが成功したことは大きな自信になりました。

福岡県が持つポテンシャル

知事: 令和2年9月、本県は、国から「宇宙ビジネス創出推進自治体」に選定されました。お二人から見た、福岡県の